

【質問】ある病気でかかりつけ医に薬をもらい、病院で詳しい検査を定期的に受けています。ところが、かかりつけ医でも病院と同じ検査を受けているのですが、無駄ではないでしょうか。
(50歳・主婦)

あじさいネット

【回答】確かに病院とかかりつけ医で同時期に同じ検査を受けるのは無駄なことと思われまます。検査の重複は医療機関同士の情報伝達がうまくいっていないために起こるのです。

現在、病院とかかりつけ医の間の情報伝達は主に紙のやりとりで行われていますが、労力と時間をかけずに、リアルタイムで情報交換できれば素晴らしいこと



や検査結果、画像などの診療情報をインターネット経由で知ることができるとい

を可能にしました。こうしたシステムは、患者、かかりつけ医の双方に多くの利点があります。患者は病院とかかりつけ医が情報を共有することにより無駄な検査を受けなくて済みます。患者はかかりつけ医からもきめ細かな説明を

かかりつけ医と病院連携

です。県内では、このような病院とかかりつけ医間の情報交換をネット上で行う

「あじさいネット」が二〇〇四年十月から大村市で始まっています。

同ネットは、かかりつけ医が患者を病院に紹介した際に、患者の病院での処方

うシステムです。情報伝達は病院から、かかりつけ医への一方に限定しており、さらに利用するには患者の同意が必要となります。

「VPN」という技術を用いることにより、システム構築費を抑えるとともに、高度なセキュリティ

を受けることができ、安心感を持てます。かかりつけ医は患者の診療情報を知り、病院と連携性を持って治療することができます。また病院にかか

つてくる患者が初めて診療所に来た時に、病院での処方方を直ちに知ることができ

情報共有、患者にメリット

ます。病院と画像や検査情報を共有することにより、病院と同じ医療機器を持たなくて済みますし、最新の診断や治療法を知ることができて医療界全体の底上げにもつながります。

これまで国立病院機構長崎医療センターを基幹病院に大村市内の病院や診療所とネットワークを結んできました。昨年十二月から県医師会に事務局を移し、長崎市内でも取り組みを広げています。県内には独自のITネットワークを持っている病院群があります。県医師会はこれらの病院にもあじさいネットを広げ、県内全域を結ぶネットワークを構築したいと考えています。(県医師会)